

2024年
新6年志望校別特訓説明会

附属池田特訓

日能研関西

■ 学校概要

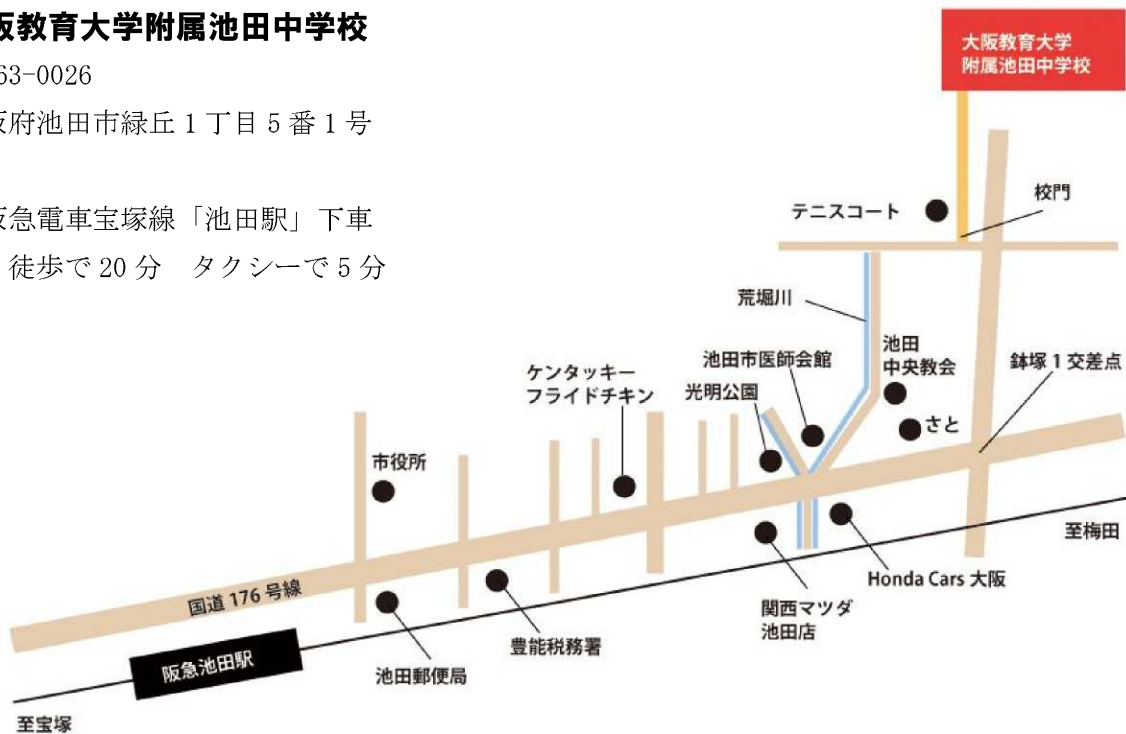
◆ アクセス ◆

大阪教育大学附属池田中学校

〒563-0026

大阪府池田市緑丘1丁目5番1号

○阪急電車宝塚線「池田駅」下車
徒歩で20分 タクシーで5分



◆ 教育方針 ◆

<5つの使命>

- 教員養成大学である大阪教育大学の研究校です。
- 大阪教育大学の学生の教育実習校です。
- 現職教育への奉仕をする学校です。
- 常に新しい教育理念と中正な教育的信念を持ち、望ましい環境の内に個性を生かしながら真の中等普通教育を実施することをめざしている学校です。
- 一般生徒、国際枠生徒（帰国生徒、在日外国籍生徒）、学校災害特別研究生徒からなる混合学級で授業を行い、新しい教育の開発をめざしている学校です。

<3つの教育方針>

自主・自律につながる学びの基礎・基本の確立

教員と生徒、生徒相互のより良い関係を確立し、自由な校風の中、自主・自律の精神を培い、自ら求め学ぼうとする態度の育成をめざしています。

確かな学力の育成

基礎的、基本的事項を定着させるとともに、体験的問題解決的な学習の充実をはかり、学ぶ意欲や思考力まで含めた「確かな学力」の育成をめざしています。

自他の文化の理解・共生の心の涵養

国際社会の中で、異なる文化を理解し、ともに生きてゆける豊かな国際感覚を持った生徒の育成をめざしています。

<特色>

- 1年に2回教育実習が行われます。
- 100校以上の小学校から、生徒が集まり、帰国子女や外国籍の生徒などさまざまな文化圏で生活してきた人が集まります。
- 地球市民として人類の平和と繁栄、地球上の様々な問題の解決に積極的に貢献しようとする精神（グローバルマインド）を育成する事をめざします。

一般枠生徒募集要項

※国際枠生徒募集要項は別に掲載しています。国際枠受験をお考えの方はそちらをご覧ください。

1. 募集人員

第1学年男女合計 144 名(連絡進学枠 [附属池田小学校からの進学者]、国際枠[帰国生徒・外国籍生徒]、学校災害特別研究枠の合格者を含む)

2. 応募資格

- (1) 令和7年3月に小学校(学校教育法に定められた)を卒業する見込みの者。
- (2) 本校に在学する間、以下に示す地区内に保護者※と同居し、かつ90分以内で通学可能な者。

[大阪府下]

池田市、豊中市、箕面市、茨木市、摂津市、吹田市、高槻市、守口市、門真市、大阪市(西淀川、東淀川、淀川、此花、福島、中央、都島、旭、北、西、城東、鶴見、東成、大正、港の各区)、能勢町、豊能町、島本町

[兵庫県下]

川西市、伊丹市、尼崎市、宝塚市、西宮市、芦屋市、猪名川町

※ 上記の保護者とは、本人に対して親権を行う者であって、原則として父母、父母のいずれかがない場合には父または母、親権を行う者がいない場合には後見人をさすものとします。

- (3) 専願者のみの出願を受け付けています。合格後、入学を辞退すると、他の志願者に迷惑がかかります。合格後は、絶対に入学を辞退することがないようにしてください。

3. 出願手続

出願については、期間内に「(1)Web 出願」「(2)書類の郵送」の手続きを行ってください。

- (1) Web 出願 (Web にて必要事項の入力及び入学検定料の振込)

Web 出願期間内に Web にて必要事項の入力及び入学検定料の振込を行って下さい。Web 出願期間を過ぎると受付できません。

Web 出願期間 令和6年12月7日(土)から令和6年12月22日(日)12:00(正午)

※ 12月15日(日)12時~18時は、メンテナンスのため HP にアクセスできません。

出願はこの時間帯を避けていただくようお願いします。

◇受験票等の印刷について

Web 出願後、受験票等(受験票・写真票・宛名票・保護者入校証)をダウンロードすることができますので A4 サイズで印刷してください。印刷後、受験票・写真票・宛名票・保護者入校証に切り分けてください。

- ・受験票は合格者招集日まで必要となります。大切に保管してください。
- ・写真票は第1次選考当日に必ず志願者が持参してください。写真票の写真はWeb出願サイトにアップロードしたものが印刷されますが、写真票に写真を直接貼り付けても構いません。写真は、上半身・正面・脱帽、(タテ4cm×ヨコ3cm、最近3ヶ月以内撮影のもので、カラー・白黒を問いません。)とします。
- ・宛名票は書類の郵送時に、封筒(角形2号)に貼り付けてください。
- ・保護者入校証は第1次選考当日に保護者が持参してください。

(2) 書類の郵送

次の①②の書類を令和6年12月25日(水)必着で、角形2号の封筒に入れ簡易書留で郵送してください。封筒には、Web出願後に発行される宛名票を印刷し貼り付けてください。期日までに郵送のない場合は受験を辞退したものとみなします。なお、①②の書類は本校ホームページよりダウンロードし、A4サイズで印刷してください。

① 在学証明書【様式-1】

【様式-1】(本校ホームページよりダウンロードし、A4サイズに印刷したもの)を、在学する小学校に作成を依頼してください。在学証明書は令和6年10月以降に作成したものを提出してください。受験番号の欄は郵送前に保護者が記入してください。

② 特別事情具申書【様式-2】

以下に該当する方のみ、①の在学証明書と同封して郵送してください。

㊦ 応募可能地区(募集要項2の(2)参照)以外の地域から受験する場合。

㊧ 志願者と保護者の現住所が異なる場合。

㊨ 受験上、配慮を要すべき身体上の事情がある場合。

㊩ その他、受験および就学において特別な事情がある場合。

※ ㊦・㊧については入学までに「生徒募集要項2の(2)」を満たすことを出願条件とします。住所変更後、本人と保護者の「住民票の写し」または、「住民票記載事項証明書」を令和7年3月25日(火)までに提出してください。

4. 入学選考

(1) 選考期日

1月25日(土) 9時20分から12時20分	第1次選考
1月27日(月) 16時00分	第1次選考結果発表(Web)
1月28日(火) 8時30分から13時00分	第2次選考
1月30日(木) 9時00分	合格者発表(Web)

(2) 選考方法

① 第1次選考

検査Ⅰ《筆記による検査》「国語」

検査Ⅱ《筆記による検査》「算数」

② 第2次選考

検査Ⅲ《筆記による検査》「社会」「理科」から1教科を選択

検査Ⅳ《実技による検査》「音楽」「図工」「体育」「家庭」から1教科を選択

(3) 検査内容について

本校では、学習したことを豊かな自己表現や行動に生かせる力の育成を大切に考えています。そのため各教科の基礎学力の習熟度および、基礎学力に基づく思考力・判断力・表現力が身に付いているかを検査します。

◇ 選考日について

- ・志願者は、保護者同伴で登下校してください。
- ・保護者の控室は武道館となります。
- ・点呼や検査等の定められた時刻に遅れた志願者は、受験を許可しない場合があります。
- ・校舎内は、土足を禁止しています。志願者、保護者ともに、「上履き」「下履きを入れる袋」を準備してください。

◇ 準備物について

- ・「筆記による検査」(検査Ⅰ～Ⅲ)の時には、筆記用具、定規(角度を測れないもの)、時計(スマートウォッチなどの通信機能や電卓機能、辞書機能がついていないもの、時計本体の各長さが5cmを超えないもの)を準備してください。

※スマートフォン、携帯電話等、通話・通信機能のあるものは受験室への持ち込みを禁止します。

- ・「実技による検査」(検査Ⅳ)については、第1次選考終了時に各受験会場で連絡します。
- ・一次選考当日には、「受験票」「写真票」「保護者入校証」を、二次選考では、「受験票」を持参してください。

5. 入学予定説明会

(1) 合格者招集日(合格者・保護者)

合格者招集日 令和7年2月1日(土) 午前

詳細は合格発表時にお知らせします。必ず保護者1名が同伴してください。

(2) 事務手続き日(保護者)

事務手続日 令和7年2月10日(月)午前

詳細は合格発表時にお知らせします。

6. その他

- (1) 在学証明書等、提出された書類は一切返還いたしません。
- (2) 出願後、一旦受理した入学検定料は、返還いたしません。ただし、次の場合は入学検定料の返還請求ができます。(返還に伴う振込手数料は請求者の負担となります。)
 - ア)出願資格を有していないため出願書類が受理されなかった場合
 - イ)入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合
- (3) 来校の際は、混雑による周辺への迷惑・危険防止のため、必ず公共交通機関を利用してください。自動車や自転車での来校はお断りいたします。
- (4) 不合格者に対してのみ、個人の各教科の得点を開示します。請求には、所定の用紙が必要になりますので、本校ホームページよりダウンロードしてください。請求用紙に必要事項を記入の上、切

手を貼った返信用封筒とともに、本校「入試委員会」宛に郵送してください。なお、請求書類は令和7年2月27日(木)必着となります。

開示は令和7年4月1日(火)10時に、保護者または、本人と保護者に対して本校で行います。当日、必ず受験票および保護者の名前が確認できるものを持参してください。

本校では、出願時に取得した個人情報は、入学者選抜に関する業務(統計処理などの付随する業務を含む)にのみ利用します。

	2022年	2023年	2024年	分析と対策
	①物語文 〔漢字の読み書き、言葉の意味、選択肢、空欄補充、ぬき出し、四字熟語、空欄補充の記述、具体化の記述〕 ②論説文 〔漢字の読み書き、空欄補充、ぬき出し、言葉の意味、具体化の記述、空欄補充の記述、選択肢、内容把握〕 ③作文 〔150字～200字・二段落構成で〕	①物語文 〔漢字の読み書き、理由の記述、ぬき出し、選択肢、空欄補充、四字熟語、具体化の記述、脱文挿入〕 ②論説文 〔漢字の読み書き、空欄補充、ぬき出し、言葉の意味、対照的内容の記述、理由の記述、内容把握〕 ③作文 〔150字～200字・二段落構成で〕	①物語文 〔漢字の読み書き、空欄補充、慣用句、ぬき出し、具体化の記述、選択肢〕 ②論説文 〔漢字の読み書き、ぬき出し、言葉の意味、空欄補充、具体化の記述、選択肢、内容正誤〕 ③作文 〔150字～200字・三段落構成で〕	今年度も文章二題と独立した作文問題一題の構成であった。設問形式では記述、ぬき出し、選択肢がバランス良く配されている。全体として難問ではないが、様々な条件づけをした出題もあり、慎重に解く姿勢が大切である。また、物語文では心情の間接表現や情景に着目させるものがよく出題される。間で自分の考えをまとめ上げることの練習は必須。簡潔にまとめることと正しい原稿用紙の使い方が求められている。
国語	①計算 (混合計算、逆算) ②速さ (通過算) ③立体図形 (水そう、水位) ④場合の数 (正三角形内の正六角形の数) ⑤割合と比 (所持金と負担金額) ⑥平面図形 (周りの長さ、面積) ⑦規則性 (試行、数直線上の石の移動) ⑧立体図形 (小立方体の積み重ね、くり抜き) ⑨速さ (直線上の点の移動) ⑩データの活用と文章題 (中央値、推論)	①計算 (混合計算、逆算) ②数の性質 (倍数の個数) ③割合と比 (相当算、分配算) ④データの活用 (柱状グラフ、割合、平均) ⑤割合と比 (差集め算、倍数変化算) ⑥速さ (三用法、つるかめ算の利用) ⑦平面図形 (複合図形の求め方) ⑧文章題、平面図形 (植木算の応用、求積) ⑨立体図形 (水そう、水位) ⑩立体図形 (正四面体の転がり移動)	①計算 (混合計算、逆算) ②速さ (流水算) ③数の性質 (カード並べ、小数と既約分数) ④平面図形 (正方形の回転移動、軌跡) ⑤割合と比 (売買、利益) ⑥文章題 (年齢算) ⑦速さ (直角方向の通過算) ⑧データの活用と文章題 (中央値、推論) ⑨数の性質 (約数・倍数、差集め算) ⑩立体図形 (立方体のくり抜き、表面積)	形式は例年通りで、大問が10題、答えのみを記入する構成になっている。余白がほとんどなく、考え方を書き込む場所がないので、問題の裏で要点を整理し、正しく計算できるように練習しておきたい。 図表やグラフなどの読み取りを必要とする問題が出題されることがよくあるので、普段からグラフや表を読み取る練習をしておくことが大切である。 また、推理と論理の問題についても、よく出題されるので、問題文を整理して考える方法に慣れておくことも重要である。
算数	①食塩とミョウバンの溶解度 ②ふりこ ③植物の発芽と成長 ④月の満ち欠け、星座早見の使い方	①熱の伝わり方、状態変化 ②手回し発電機、エスカレーター ③太陽とかけ ④デンプンの消化	①空気中の気体、燃焼 ②てこ ③天気、台風 ④昆虫の育ち方と季節と生物	物理1・化学1・生物1・地学1の計4題。私立中学受験向けの学習内容の基礎で対応できる問題が中心で、複雑な計算問題が出題されていないが、図や表、条件を読み取って考える力が求められる問題や、記述・作図問題が出題されている。 まずは記述・作図に慣れておくことが重要である。普段から文章や図で答える練習を積み重ねておくこと。また、身の周りの現象に関心を持ち、幅広い知識を蓄えることも重要である。
理科	①地理・歴史総合問題 (水と生活環境をテーマにした問題) ②地理・歴史総合問題 (自動車の生産やその歴史について)	①地理・歴史総合問題 (沖縄をテーマにした問題) ②地理・歴史総合問題 (ワールドカップをテーマにした問題)	①地理・歴史総合問題 (銀子、神戸、長崎をテーマにした問題) ②地理・歴史総合問題 (グローバルサウスをテーマにした問題)	大問2題構成で、例年公民分野からの出題が少ないが、今年度は日本国憲法や国際連合に関する出題があった。地理・歴史分野から幅広い内容が出題され、基本的なものが多く取り組みやすい。ただ短文記述の問題が例年複数問出題されており、幅広い知識や統計資料から必要な情報を読み取る力が求められる。 例年、受験勉強とは関わりの少ない生活に関する問題も出題されるため、過去問や日能研のテストなどを通じて慣れておくこと。また、統計資料や図版をもとにした問いが多いため、日頃から確認しておくことも重要である。
社会				

「中学入試データは非公表です。」

■ 特訓概要（今年度版）

◆ 開催校 ◆

川西校

◆ 受講基準 ◆

「公開模試」の2科目平均偏差が48以上
または、「思考力育成テスト」の3科目平均順位が250位以内

◆ 指導教科 ◆

前期特訓…国語・算数

後期特訓…国語・算数は毎週実施、理科・社会は隔週実施

（例）1週目：算数・国語・理科 2週目：算数・国語・社会

◆ 一週間のモデルスケジュール ◆

火曜日	木曜日	土曜日	日曜日
国語	理科	算数 社会	学習力育成テスト※・公開模 試 附属池田特訓

※ 前期は学習力育成テスト、後期は合格力育成（実践）テスト

（本科クラス）国語 150 分・算数 200 分・理科 150 分・社会 100 分

（本科発展クラス）国語 200 分・算数 250 分・理科 150 分・社会 100 分

◆ 授業時間 ◆

－ 前期 －		－ 後期 －	
09:00～12:20	学習力育成テスト 公開模試	09:00～12:20	合格力育成テスト・合格力実践テスト 公開模試
12:20～12:45	食事休憩	12:20～12:45	食事休憩
12:45～14:25	授業①（100 分）	12:45～14:25	授業①（100 分）
14:35～16:15	授業②（100 分）	14:35～16:15	授業②（100 分）
		16:25～18:05	授業③（100 分）

※ 学習力育成テストや公開模試等のテストは特訓開催校で受験します。

※ 次年度の特訓時間割は変更になる場合があります。

◆ 特訓保護者会 ◆

年2回実施（第1回は5月ごろ、第2回は11月ごろに実施）

第1回保護者会…特訓担当者紹介、特訓指導方針、前期指導内容など。

第2回保護者会…後期指導内容、入試説明、併願校の紹介など。

◆ 特訓カリキュラム ◆

	回数	国語	算数	理科	社会
前期 (2～7月)	1	類題演習・作文指導	過去問セレクト・数の性質①		
	2	類題演習・作文指導	過去問セレクト・数の性質②		
	3	類題演習・作文指導	過去問セレクト・数の性質③		
	4	類題演習・作文指導	過去問セレクト・数の性質④		
	5	類題演習・作文指導	過去問セレクト・場合の数		
	6	類題演習・作文指導	過去問セレクト・文章題		
	7	類題演習・作文指導	過去問セレクト・比①		
	8	類題演習・作文指導	過去問セレクト・比②		
	9	類題演習・作文指導	過去問セレクト・比③		
	10	類題演習・作文指導	過去問セレクト・比④		
	11	類題演習・作文指導	過去問セレクト・平面図形①		
	12	類題演習・作文指導	過去問セレクト・平面図形②		
	13	類題演習・作文指導	過去問セレクト・平面図形③		
	14	類題演習・作文指導	過去問セレクト・平面図形④		
	15	類題演習・作文指導	過去問セレクト・平面図形⑤		
	16	類題演習・作文指導	過去問セレクト・速さと比①		
	17	類題演習・作文指導	過去問セレクト・速さと比②		
	18	類題演習・作文指導	過去問セレクト・速さと比③		
	19	類題演習・作文指導	過去問セレクト・立体図形①		
	20	類題演習・作文指導	過去問セレクト・立体図形②		
夏期	1		附属池田過去問題①	過去問セレクト・総合問題	
	2	類題演習・作文指導			入試問題研究・地理のまとめ
	3		附属池田過去問題②	過去問セレクト・総合問題	
	4	類題演習・作文指導			入試問題研究・歴史のまとめ
後期 (9～1月)	1	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・生物	
	2	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・地理基本 ①
	3	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・地学	
	4	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・地理基本 ②
	5	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・物理	
	6	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・地理基本 ③
	7	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・化学	
	8	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・地理基本 ④
	9	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・生物	
	10	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・記述対策 ①
	11	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・地学	
	12	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・記述対策 ②

	13	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・物理	
	14	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・記述対策 ③
	15	入試問題研究	附属池田予想問題	入試問題研究・総合	
	16	附属池田過去問題・作文指導	附属池田過去問題		入試問題研究・記述対策 ④

■ 国語の指導内容

◆ 入試の出題傾向 ◆

同校の国語は物語文一題・説明的文章一題という構成になっています。この形式は例年変わっていません。今年度の入試でも大きな変更はないと思われます。

(物語文)

文章量はページ数でB4・1枚を少し超える程度の文章量が出題されます。文字数ではおおむね2500字～3000字程度のものが出題されており、他の学校のもの比べるとやや短めといえます。

素材文においても、小学校の授業で扱われるレベルの読みやすいものが多く、受験生にとっては取り組みやすい内容と言えます。

(論説・説明文)

上記の物語文よりも短めのものが多く、問題と併せてB4・半分程度です。文字数はおおむね1500～2000字程度といったところです。素材分で扱われるテーマは多岐にわたります。

(出題傾向)

合計すると小問数は35問前後になっています。出題形式は「記述」「選択肢」「ぬき出し」がバランスよく出題され、その中には言葉の知識を問うものや細部表現をおさえるものも出題されます。

また近年は、比喩に関する記述(物語文)や要旨の記述(論説文)が出題されるなど、やや難化の傾向にあります。

(作文)

同校の入試問題の一番の特徴はやはり作文問題です。「150～200字で書くこと」という字数指定、「原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと」といった条件が多く見受けられ、題材に沿って短くまとめさせるものが出題されています。

素早く自分の考えを整理し、正確に記述する力が必要になります。また、近年では「改元」や「夏季オリンピック」、「コロナ禍」など時事問題と絡めた題材が取り上げられています。

(まとめ)

合格するためには「基本的な言葉の知識」や「設問が求めている事を正確につかみ、しっかりまとめる(その問題を落とさない)記述力」を身につけておく必要があります。基本的な問題を確実に押さえる力と、高難度の問題を解ききる力(国語の得点が二次試験にも持ち越されるようになった2022年度入試からは特に、この力も必要とされます)の両方が問われるテストといえるということです。

◆ 本科授業の内容 ◆

前述の(まとめ)にあります力の、根幹を作り上げていくのが本科授業となります。

6年生前期では、5年生で学習した文章読解の知識を、実際の入試問題に応用し、文章を構造的に読む力や解答を作成する上での思考方法を身につけることに重点をおいて学習を進めていきます。また、授業および宿題(語句のまとめ)で扱われる語句知識は、そのまま入試当日の得点に結びつきます。

6年生後期では、さらに合格力を高めるための戦略的な思考方法を身につけていきます。具体的には、「時間配分」「配点」「解く順番」「ミスを防ぐための見直しのしかた」などを身につけ、点数や時間を意識した「合格するための」学習を進めていきます。

◆ 特訓授業の内容 ◆

前期中は、同校の入試問題を解くために必要な力を身につけるため、「物語文・論説文」を中心にジャンル別に扱い、演習を通して、特に記述問題へのアプローチを身に付けていきます。加えて、「作文課題」を通して、前述の「自身の考えとその理由」や「自身の経験」を正確に伝える力を養います。

夏期講習以降は、実際に同校の過去問を使って学習していきます。過去の問題に触れ、自身のゴール、およびゴールとの距離を明確にすることが一つの目的です。

本科授業で文章を構造的に読む力や語句の知識を養い、特訓授業では記述問題や附属池田中最大の特徴である作文課題に対応する力をつける。これが本特訓の方針です。

いわば、本科授業と特訓授業の両輪で進んでいくため、どちらも欠くことができません。基本的なこととなりますが、どちらの宿題も丁寧に取り組んでいくことが求められます。また、テストや授業の「直し」も、前述の「難度の高くない問題を落とさない力」を養うためにも必要不可欠です。

以上を徹底し、合格のために、(まとめ)にある力を養っていきましょう。

■ 算数の指導内容

◆ 入試の出題傾向 ◆

- ① 入試形式…B4 縦 2 枚。解答書き込み式。50 分・80 点満点。①～⑩各 2 問、小問数 20。
- ② 出題単元…①は計算 2 問。②～⑩は大問で、例年、数の性質、規則性、場合の数、割合と比、文章題、推論、速さ、平面図形、立体図形など幅広く出題されています。

標準的な年度の目標点は 7 割強～8 割弱と比較的高得点です。①の計算は、必ず正解しなければなりません。1 問は普通の混合計算、もう 1 問は分配法則の利用や分数の差に直して消去するとうまく解ける問題がよく出題されます。②～⑩の大問で特に出題頻度が高いのは、「場合の数」、「推論」、「規則性」、「進行グラフと速さ」、「立方体の展開図」、「水そう・水位」などです。これらの単元は特に力を入れて学習しておきたいところです。

問題の難度は幅広く、比較的易しい問題が多い反面、中にはかなりの難問も出題されています。難度順に並んでいないので、取捨選択をうまくやって解く順番を決めていく必要があります。また、「場合の数」、「推論」、「規則性」などは、それほど難しくなくても、表や図をかくて考えさせる問題が多く出題されていますので、過去問などで慣れておく必要があります。表や図に表して考えることに慣れていれば、実は易しい問題だったり、逆に見た目は易しく見えても、場合分けが複雑で難度の高い問題だったりすることがありますから、問題を見極める目を持つことが大切です。

弱点を作らないためには、苦手単元を作らないように学習していくとともに、日頃から、図や表にまとめるなどの作業を通じて解くこと、実際に調べあげて規則を発見しながら解くことに慣れておく必要があります。また、表やグラフなどが他の学校ではあまり見かけない独特の形式であったり、設問から情報を読み取ってグラフや表を書かせたりする問題が時折出題されます。あわてずに落ち着いて読めば、それほど難問でない場合が多いので注意が必要です。

いずれにせよ、設問の設定さえ理解できれば、あとは基本パターンに持ち込んで解けるものが比較的多いので、悩みすぎたり、時間をかけすぎたりしないように、過去問をしっかりとやりこなして慣れておくことが大切です。

◆ 本科授業の内容 ◆

附属池田中の算数は合格点が比較的高いので、基本問題の取りこぼしやミスは許されません。また、難しい設問、易しい設問がどの単元になるかは毎年変わるので、まずは苦手単元をつくらないこと、すなわち、どんな単元であっても基本的な問題は必ず解ける力が必要です。このような力を身につけるには、普段の本科教室の段階から、少なくとも「考えよう」とその対応するレベルの問題は必ず解けるように、さらに絶対にミスをしないように、常に目標を持って取り組むことが大切です。テキストと栄冠への道で解き方が理解できたら、算数強化ツールや特別算数のテキストなどで、ミスなくいつでも解ける状態になることを目指して練習しましょう。基本的な解法ができるようになって油断せずに、もう少し演習して解法を定着させることが重要です。

また、計算も毎年出題されており、ミスするわけにはいきませんから、計算力を高めておかねばなりません。「計算マスター」を利用して、日頃から時間を計って、常にミスなく解ききれる時間配分で計算する練習を積んでおきましょう。そして、工夫して計算できるところは必ず工夫を心がけて計算する（分配法則の利用や、分母の積を分数の差に直して消去するなど）ようにしましょう。

◆ 特訓授業の内容 ◆

- ◎ 苦手単元を克服し、解法のバリエーションを増やすために「課題プリント」を課しています。制限時間を守ってテストのつもりで自分の力だけで取り組み、弱点を発見して毎週克服していくことの積み重ねが、合格するためには非常に重要です。
- ◎ 予想問題、または、実際の入試問題を使って、答案の作り方や問題の選び方などの得点力を鍛える「入試問題演習」を重点的に行い、実戦力を高める指導をしています。入試本番と同じように、問題の裏で計算をして要点だけをうまくまとめて答えることなども継続して取り組んでいきます。

入試で合格するには、満点を取る必要はありませんが、

- 1) 誰もが得点しなくてはいけない基本的な問題で失点しないこと
- 2) 難問を見極め、解き易いところからうまく解答していくこと
- 3) 少々作業が必要になっても、合否を分ける問題ではしぶとく取り組んで得点すること

が必要です。

特訓授業では、入試本番を想定した学習方法を身につけ、効率よく正確に解くための練習を継続して実体験していくこととなります。必ず合格するんだという強い気持ちを持って、真剣に取り組めるかどうかによって、数カ月の間にはたいへん大きな差がついていきます。みなさん、合格を目指す意志を常に強く持ってがんばっていきましょう。

■ 理科の指導内容

◆ 入試の出題傾向 ◆

附属池田中学の理科の入試問題はここ最近大問が3題～5題となつてはいますが、40分という試験時間内で十分こなせる問題が出題されています。

問題の特徴として「身近な現象に関する問題が多い」「浮力など小学校の学習指導要領に載っていない問題は出題されない」「作図や記述の問題が多い」「難しい計算問題は出題されない」「実験や観察にもとづく問題が多い」などが挙げられますが、その中で気をつけなければならないのは、各大問の最後の方に思考力を必要とする問題が含まれているという点です。ただ、その問題がわからなかったとしても、それ以外の問題をミスなく得点すれば、この学校の理科の目標得点である35点（50点満点中）に十分届くので、ミスの少ない答案を作ることが大切であると言えます。

また、出題内容については物理分野であれば「てこ」「ふりこ」「電流回路」、化学分野であれば「三態変化」「燃焼」「ものの溶け方」、生物分野であれば「動植物の冬越し」、地学分野であれば「太陽とかけ」が比較的よく出題されますが、「てこ」についても難しい計算問題が問われるのではなく、その「原理」を問うことが多く、「ものの溶け方」についても計算ではなく溶け方や濃さの「違い」を問うことが多いので、その意味では十分な練習が必要であると言えます。

◆ 本科授業の内容 ◆

前期内容の総復習を問題演習中心で行っていきますので、「焦らず」できる問題を1つずつ増やしていく「努力」が必要であると言えます。

◆ 特訓授業の内容 ◆

理科の授業は、夏期講習から始まりますが、その中で附属池田中学過去問を中心に各地の国立校の附属天王寺、附属平野、中高一貫校、その他類似の私学の過去問のうちの良問を学習していきます。授業は時間を計って「問題を解く」「答え合わせ」「採点」「解説」という流れで行っていきます。その中で特に附属池田中学に必要な「作図力」「記述力」「思考力」を養っていきます。

家庭学習は授業で解いた問題の「間違い直し」と「家庭学習用教材」の2つです。そのとき、授業での「問題解法」が定着できるよう、解いた過程は必ずノートに残していくことが大切です。

■ 社会の指導内容

◆ 入試の出題傾向 ◆

小学校で使用される検定教科書の内容をもとに、学習指導要領の指針にもとづいて作問されています。したがって基本的な知識を確認する問題、基本的な知識を応用して考える問題、問題の指示にしたがって記述して解答する問題がバランスよく出題されます。このため、知識を幅広く関連づけて身につけておく必要があります。

たとえば、地理分野では都道府県の特色について問う問題（とくに、大阪府、兵庫県の北摂地域を中心にした地理関係が最近出題されています。）や統計資料にもとづいた問題などがみられます。こうした問題では問題文のヒントをもとに様々な角度から考えて解答しなくてはなりません。都道府県の地誌や世界の国々の特色などについてしっかりとした理解のうえにたつ知識が求められています。

こうした傾向は歴史分野・政治分野でも同じです。歴史分野では基本的な用語を答える問題も一定の割合で出題されます。基本的な用語はしっかりマスターしておく必要があります。問題文では漢字で解答するように指示されているものがほとんどですので、小学校で使用されている社会科教科書に記載されている人名・地名などは漢字で書けるようにしておかななくてはならないでしょう。各時代の特色や前後の関係についても理解しておかなければなりません。公民分野では、裁判員制度など、時事問題に関連して出題されることも考えられます。新聞などのニュースによく気をつけて、関連する事項について学習しておくことも必要でしょう。

全体的には中学受験生にとっては基本的な知識を問う問題が多く、高得点の争いになる出題です。きちんと勉強してきた受験生にとっては手堅く得点できる出題であるといえます。

そのほかに注意しておくこととして、「記述力」をつけることがあげられます。例年、記述形式で解答する問題が4、5問出題されており、この学校の入試問題の特徴といえるでしょう。今後も学習指導要領で、記述力を重視することが強調して述べられているので、作問に反映することは、今後も変化がないと思われます。したがって、基本的な知識をこつこつと積み上げていくとともに、社会科で使用される用語について文章で説明する練習や、地理・歴史・公民の全分野に関して基本的な知識をもとに問題の指示にあわせて記述する練習も必要です。

合格には、年度によって違いますが、**8割以上の得点を目標に勉強するとよいでしょう**。第2次選考で社会科を選択した場合は、確実に得点しなくてはなりません。したがって、やはり基本的な知識で解答できる問題で確実にミスなく得点することが合格への道であるといえるでしょう。

◆ 本科授業の内容 ◆

日能研では社会を4年生から本科授業で扱っていきますが、4年生では主に「地理分野」、5年生では「地理分野」「歴史分野」と学習を進め、6年生前期の本科授業では「地理分野」「歴史分野」の5年生で学習した範囲を発展させ、「政治分野」を新たに学習します。この流れで学習した内容のひとつひとつをしっかりと身につけていくようにしてください。

◆ 特訓授業の内容 ◆

6年の夏期講習・後期の特訓授業からは附属池田中学校の過去問題を中心に入試問題演習を社会では取り組んでいきます。授業は、時間を計り入試問題を解く→答え合わせ→採点→解説という流れで進めていきますが、その中で附属池田に必要な力を養成していきます。

また家庭学習では宿題として授業で解いた問題の間違い直しと宿題プリントなどを課題として出しますが、これらをこなすことによって、授業で進めた内容を確認し、より定着へと促します。

附属池田特訓の社会は夏期講習から始まりますが、6年生の前期本科教室で各分野、各単元の理解を深め、基本的な知識をできるだけ身につけて、夏期からの社会の特訓授業開講に照準を合わせていきましょう。そして附属池田合格を目指してがんばっていきましょう。